（３）②様式第３号－２（報告書）

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。
※必ず A３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 島根大学大学院教育学研究科・島根県教育委員会／鳥取県教育委員会
	事業名： （学び続ける教師を応援する）しまだい学校教員研修（2024）
	研修等名：【NITS・島根大学コラボ研修】 （学び続ける教師を応援する）しまだい学校教員研修（2024） ―特別な配慮や支援を必要とする子供への対応及び ICT や情報・教育データの利活用に主として関するもの―
	開催日時：次頁の表を参照 開催場所：島根大学教育学部附属山陰教員研修センター（島根県松江市大輪町 416－4） 参加人数（総数）と参加者の属性：延べ 135 人（鳥取県 41 人、島根県 86 人、山陰県外 8 人）

目的：

教員免許更新制のもとで培われたコンテンツを厳選し、先進的事例の視察や書籍による情報収集をもとに、それらについて研修内容および実施方法を見直すことで、「限られた時間」の中で受講できる効果的な研修を整備する。具体的には、これまで島根大学において開講してきた教員免許状更新講習の中でも、評価の高かった講習（2021 年度の講習満足度が５件法で 4.0 以上）を中心に、最新の教育課題に対応するための新規開設科目も含めて 34 研修を体系化し、山陰地方の教育関係者を主たる対象として開講する。なお本報告書では、特別な配慮や支援を必要とする子供への対応に主として関する研修８講座、及び ICT や情報・教育データの利活用に主として関する研修 5 講座を取り上げる。

内容：※全体発表の内容をテープ起こしするなど、具体的に記載してください。

各講座３時間または６時間のプログラムを、対面／非対面（同期型オンライン）を併用するハイブリッド（ハイフレックス型）で開催した。コミットメントが低下しがちなオンライン受講者に対しては、Microsoft Forms 等を利用して質問を受け付けることで、対面での講座と同様程度の双方向性を担保した。

特別な配慮や支援を必要とする子供への対応に主として関する研修では、近年急速にニーズが高まっている特別支援教育に関係する専門家を講師に招き、研修を実施した。複雑化している子どもの課題への対応を念頭に、障害のある子どもの理解はもちろんのこと、教科学習を進める上で児童生徒が感じる困難への対処法など、幅広く「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」に関する実践的かつ具体的な内容が展開された。全体に共通して、個々の児童生徒や保護者と対話を重ねること、そして多機関連携の重要性が確認された。

ICT や情報・教育データの利活用に主として関する研修では、データやテクノロジーという視点から、山陰地域特有の課題や、最新の教育課題に関する研修を実施した。より便利で効果的・効率的ながら複雑化するデータ利活用の方法やテクノロジーを分かりやすく紐解くことで、ICT に対応した教育の実践を促進した。受講生が実際に体験しながらデータの利活用を学ぶ場面が多く設定されたことで、授業実践に繋がる研修となった。

受講後、参加者はオンラインフォームを通じて課題や事後アンケートを提出した。一般的な研修とは異なり、本研修では受講者から提出された課題やレポートに対して、担当講師から直接フィードバックが得られる仕組みを整備した。

成果：※参加者の声など客観的な情報・データとともに記載して下さい。

◆研修終了後のアンケートで講習の平均満足度が 4.0 以上（５件法で「だいたい満足した」又は「満足した」と回答）だった講習は 12／13 講座（92.3%）であった。全 13 講座の満足度の平均は 4.56 であり、受講者全体の 94.0%が「満足」（「だいたい満足した」又は「満足した」）と回答した。
◆受講者の学びの一例は以下の通りであった。(受講者のワークシートより一部抜粋)
「教員としてのみならず、親として、自分事として聞くことができた。また聞きたいと思える研修は今回が初めてだった。隣県から参加したが、それだけの価値があるものだと思う。」「大変勉強になりましたし、すぐにでも活かせそうな情報を得ることができました。自分が知っているだけではだめで、子どもができるようなってこそだということを再認識させられました。」「講習名だけでは気づかなかった、「連携」の幅広さ、必要性や重要性を知ることができました。連携相手と相互のニーズも共有しながら、必要な情報を伝え合い、子どもにとってよりよい関係を築き日々の指導に当たっていきたいです。」

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

本研修は、教師の力量形成・深化の過程において「新しく知り、慣れていく過程」や「意味付けや捉え直しを通じて、実践を発展させる過程」に位置づくものであったと考えられる。既存の研修では一般的に課題やレポートの提出で研修を終えるものが多かったが、本事業で実施する研修では、受講者から提出された課題やレポートに対して、担当講師からフィードバックを行った。これによって受講者の学びが「豊かな気付きが醸成される学び」となる可能性が大きくなったと考えられる。一方で、受講者数が５名を下回る研修も３研修生じた。（そのうち１研修は申込者が０名。）研修内容自体の意義は認められる一方で、受講者の視点に立ち、「研修を通じて、参加者にどのような気付きや変化があるか」を受講前に共有できるようにしていくことが課題として考えられる。

アイディアや工夫したこと： ※実際の様子がより分かるよう、必要に応じて写真や図を用いて説明してください。

◆日常的に利用されている割合が高く、ICT に関する条件整備が十分でない地域においても受講障壁が小さいと考えられる、YouTube Live を実施方法に採用することで、受講者の環境に配慮した研修を実施した。
◆受講者が担当講師から直接フィードバックを得られることで、受講者の学びが深化し、教師の学び続けるサイクルの駆動を促進することができた。

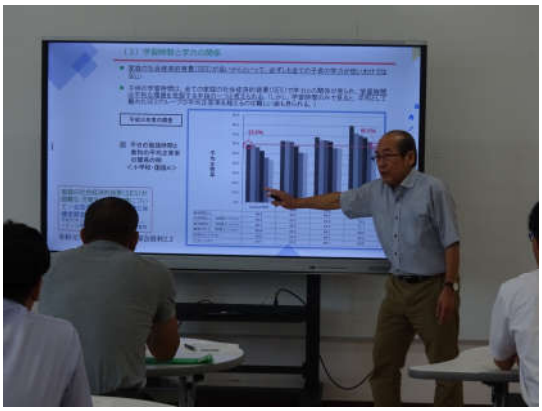
表　開講研修一覧

○特別な配慮や支援を必要とする子供への対応に主として関するもの

研修日	研修時刻	講座の名称	担当講師	実施形態	受講者数
7月19日(金)～ 8月23日(金)		英語学習における学びの多様性と 授業での工夫を考える（理論編）	大谷 みどり	オンデマンド	14
8月21日（水）	9:00～12:15	UDLに基づく中学校・高等学校数学科の指導	御園　真史	ハイフレックス	6
8月8日（木）	9:00～16:15	アセスメントの重要性と多機関連携の在り方	藤原　建 山澤　重美 岡崎　茂 宇城　明	対面	20
7月19日(金)～ 8月23日(金) 9月26日(木)	13:30～16:45	英語学習における学びの多様性と 授業での工夫を考える（理論・実践編）	大谷 みどり	対面	17
10月10日（木）	13:30～16:45	障がいのある子を養育されている保護者の「語り」からの学び	原 広治	対面	11
10月17日（木）	9:00～12:15	児童・生徒のこころの理解～愛着の視点から～	稲垣　卓司	対面	18
10月31日（木）	13:30～16:45	子ども理解とかかわり～特別支援教育の視点から～	原 広治	ハイフレックス	10
11月12日（火）	13:30～16:45	特別支援教育における医療職との連携	藤川　雅人	対面	12

○ICTや情報・教育データの利活用に主として関するもの

研修日	研修時刻	講座の名称	担当講師	実施形態	受講者数
6月27日（木）	13:30～16:45	山陰地域の教育の現在～地域間「格差」を乗り越える思考法～	津多　成輔	ハイフレックス	3
7月25日（木）	13:30～16:45	令和の日本型学校教育の実現を目指した 探究学習指導・STEAM教育のノウハウ（基礎編）	御園　真史 深見　俊崇 松尾　奈美	ハイフレックス	8
7月30日（火）	9:00～16:15	中学校技術・家庭科技術分野の問題解決のアップデート	橋爪　一治	対面	0
8月8日（木）	9:00～16:15	地理を専門としない教員のための「地理総合」入門	作野　広和	ハイフレックス	5
10月7日（月）	13:30～16:45	「教育×テクノロジー」で培う「自ら学ぶ力」 ～自己調整学習を促進するために～	松田　岳士	Zoom	11



実際のデータを活用しながら研修を行う様子

グループワークを交えた研修の様子